

11月2日(土)「看看連携 東部地区大会」に参加しました。



局地的な大雨の影響で新幹線が一時運休するなど、公共交通機関が不安定な状況ではありましたが、こちらは安定の看看連携です。

東部地区支部長 大沼以恵さんをはじめとする東部地区支部主催で開催されました。

本日の大会は、特別講演と地区別のグループワークで構成されていました。

特別講演の講師は医療法人社団律昌会さくら醫院 理事長・院長の安達昌子(あだちあきこ)先生です。

「つなげよう！みんなで考える ACP」～地域で生活を支える医師の立場から～をテーマに地域で安心して過ごすための連携・なかまづくりが大切として、地域の看護職が一堂に会するこの場を評価した上で、ACP に効用と問題点などのお話し、そして、ACP(人生会議)の意義 必ずしも絶対的なものではない。「意思決定＝意思確定」ではない。気持ちは揺らぐもの、という前提で受け入れる。「意思決定＝医療の選択」ではない。どのような生活が理想なのか、これから先をどう生きたいのかを共に考えるプロセスであって、医療はあくまでその一部、医療の選択や療養場所の選択が目的のすべてではない。

大切なことはひとつひとつの症例の積み重ねである。けっして、やりっぱなしにしない。チームメンバーのもやもやを残さず、経験知を次の人にも伝えられることが素晴らしい。「誰のため？何のため？」を忘れず共に悩み伴走する。

私たちの目標は「人間としての尊厳が尊重され、なじみの場所で最愛の人々に囲まれて安心して過ごす事、それを私たちが、専門チームとして、一丸で寄り添い、支え続け、最期までご自身らしい時間を過ごしていただくこと」ツールは大事だが、使いこなさなければ意味がない。ツールに振り回されぬよう理解・確認・納得しながら活用することが大事。

ナラティブストーリーを紹介しながら、「真の意思決定への伴走」をお話しくださいました。

グループワークでは、地域が近くて、領域が異なる看護職同士のグループで「連携」に関する話で盛り上がり、時間が足りないくらいでした。



「地域の仲間づくり」につながったことが何よりの収穫です。

大切なことは対象となるその人と向き合うこと、話す事、尊重することが確認できました。

「患者さんの尊厳を支える大切な看護行動」が意思決定支援・・・岩本ゆい氏著書より